

33 石川県富山病院・同医学所の

医師について

赤祖父 一知

越中国富山町は、明治九年から明治十六年の富山県分離独立までの間、加賀、能登、越中三国と、一時期越前国嶺北七郡を包括する大石川県に属していた。この時期富山町に設置された石川県富山病院・同医学所については富山町関連の資料の乏しいこともあって十分解明されていない。そこで、明治十五年調『内務省免許全国医師薬舗産婆一覧』と明治十六年富山県分離のとき県に上申された『富山県富山病院院長当直医履歴書』を中心として、石川県富山病院・同医学所に関与した医師・教師について講究した。

この病院は、明治九年十月富山千石町に公立石川県病院富山分病院として創立され、翌明治十年二月石川県富

山病院と改称、同年十一月富山町惣曲輪に新築移転し、その後明治十六年七月富山県分県に伴い富山県富山病院となった。医学所は、明治十年六月病院内に分置され、一時明治十二年十二月金沢医学校に併合されたが、授業は従前通り継続された。

その後明治十三年九月に再興の決定がなされ、翌明治十四年十一月に廃校となるまで約二年間半存続した。なお、この病院・医学所の職員数は年度によって異なるが、明治十年から明治十四年までの『文部省年報』、『石川県治一覧・同概覧』等によれば、教員数は七〜三名、医員数は九〜七名であった。

奉職履歴内務省免許医師については、明治十年八月の内務省達乙第七十六号「維新以来該術ヲ以テ諸官庁及地方公立病院ニ奉職従事シ主トシテ医療若クハ教授ノ任ニ当タリタル者ハ志願ニヨリ試験ヲ不須ニ免状可交付候」・その資格・八番目の箇条に「府県病院及公立病院当直医以上」とある。これに該当する石川県出身の医師は総数八十三名（明治十五年調）であったが、明治十年金沢・福井・富山の各公立病院・医学所に奉職し、翌明治十一年

二月にこの免許状をうけたのは、藤本純吉(免許番号・五九二)、高桑實(五九三)、大武又玄(五九四)、竹内耕石(五九五)、馬島健吉(五九六)、宮永典常(五九七)、土田錫(五九八)、横井三柳(五九九)、明石朝幹(六〇〇)、大田美農里(六〇一)、藤井方亭(六〇二)、石川鼎(六〇三)、楠香居(六〇四)、赤祖父義正(六〇五)、藤井貞為(六〇六)、織田秀教(六〇七)、須賀忠愛(六〇八)、根尾巽(六〇九)、一欠一(六一〇)、高峯精一(六一一)、田中信吾(六一二)、松田壬作(六一三)、原田俊三(六一四)、稲坂謙吉(六一五)、石川孝恭(六一六)、宮北徳(六一七)、上杉寛二(六一八)、辻岡直江(六一九)の二十八名で、このうち富山病院・同医学所に関与していたのは、——を付した医師であつた。

すなわち、明治十六年の『富山県富山病院院長当直医履歴上申』等によると、明治九年の病院開設当初の医官は、金沢医学所から派遣された田中信吾(院長)、藤井貞為、当時富山町に在住していた藤井方亭、石川鼎らで、明治十年医学所設置に伴い、田中信吾が教長、藤井貞為が副教長心得を兼任し、当初副直医であつた富山町の織

田秀教が当直医に任命された。また、前掲上申履歴書にはないが、当時富山町に在住し洋方医として指導的立場にあつた楠香居、赤祖父義正、須賀忠愛の三名も、明治十年には当直医・教官として任用されていたものと考えられる。なお、『尾山病院医員履歴』によれば、病院開設時には金沢の不破鎖吉(明治十一年十月試験免許)が薬局長として、また、医学所が再興したときに藤本純吉が当直医として短期間赴任している。田中信吾が明治十二年十月金沢に戻つた後、藤井貞為が病院長・医学所長心得の任にあつたが、明治十三年六月に高峯精一が病院長として着任し、医学所再興のとき正式に医学所長兼任となつた。その他に、富山病院副直医の城川良哲が、明治十二年二月試験に依る免許を得、明治十三年十一月医学所教諭兼務、明治十五年十月当直医に任命された。

以上、少なくとも奉職履歴十一名、試験合格二名、計十三名の内務省免許医師が富山病院・同医学所において医師の教育と実地診療に当たつていたものと推定される。その多くは、幕末から維新时期に金沢の他、大阪、長崎、江戸、横浜等において西洋医学を学び、金沢医学館に關

与していた医師であった。なお、地元富山から金沢と関係なく任用されたのは、織田秀教(長崎医学学校)、赤祖父義正(大阪適塾・長崎医学所)、楠香居(京都時習堂)の三名であったと思われる。

(金沢大学医学部)

34 中国古来の「医学保健体操的導引」 にみる系統的解釈について

坂本 秀治、○市川 太郎

中国古代の墳墓が発掘されて、古代文献が大量に発見された。その中に帛及び木簡に記された、導引図と名付けられた絵図が含まれており、そこには多くは裸、裸足で中国古代伝統の運動範式を物語る男女四十四型の導引動作が描かれており、学界の注目をひいた。

長寿社会となって健康管理の叫ばれる現在、数多くの種類の体操法が存在するが、古代中国にもこれに匹敵する位多くの種類の、仙人達によって創案された体操法が存在したとされる。この他にも道教書に詳述された体操法が数多くある。古代にもかなりこういった養生法が普及していたことが窺える。

色々の種類のものが混っていて、順序もなく、目的に